

ちょこっとサポート 便り

「困ったときはお互い様」できることは住民同士でお手伝い



認知症ステップアップ研修に参加して

ちょいサポくん

10/18 テーマ「認知症とともにによりよく生きる社会」

令和6年12月

会員数

(令和6年11月末現在)

支援会員 65人

依頼会員 123人

知多市社会福祉協議会が主催する、サロンスタッフとチームオレンジ(※1)の方々を対象とした研修会に参加しました。講師の鬼頭さんは、名古屋市社協の職員として認知症当事者とともに活動する中で社会の中の境界線を考え、当事者の経験を起点に活動を展開する一般社団法人ボーダレスを起業されています。

講演の中で、当事者の会と中学校野球部とのソフトボール交流会プロジェクトが紹介されました。野球部員が認知症サポートー養成講座を受講し、当事者の方との話し合いの場を持ち、分かりやすいルールに変えてともに楽しむことができた。当事者の“やりたいこと”を実現することで両者の距離が縮まっていたという事例です。

令和6年1月に認知症基本法が施行されました。基本理念第3条に全ての認知症の人が、基本的人権を享有する個人として、自らの意思によって日常生活および社会生活を営むことができるようになります。

全国で認知症の方は471万人、研修会会場でも「将来認知症になると思う方」という問い合わせに、私を含め多くの方が手を挙げていました。研修のテーマは誰もが自分ごととして考えたい課題です。

「何に困っているのか」「どうしたら安心な暮らしにつながるのか」を考えることは、認知症の有無にかかわらずたすけあい活動の中では自然なこと。改めて共生社会づくりにとって大切な活動と実感しました。

社会の“認知症観”を変える

これまでの認知症の人のイメージ

- ・徘徊
- ・寝たきり
- ・なにもできない・わからない人



新しい認知症観

- ・さまざまな工夫をしながら生活している
- ・地域の助け合いの中で豊かに暮らしている
- ・地域の中で社会参加している

【10/18 講師鬼頭史樹さん資料より】

次回の支援会員交流会では、日常生活で認知症の方と触れ合うときの支援方法について学ぶ研修会を開催します。多くの皆様の参加をお待ちしています。(五十嵐)

※1チームオレンジとは
地域の認知症サポートーが認知症当事者・家族とチームを作り、「認知症の人に何ができるかではなく、認知症の人と何ができるか」そんな思いを持って活動しています。

 第2回ちょこっとサポート支援会員交流会
 「認知症の方の気持ちと対応について」
日時：令和7年2月19日（水）
13:30～15:30
場所：ゆいの会 多目的ホール
講師：公立西知多総合病院 看護師



支援会員Aさんをご紹介

日長在住のAさんは、75歳まで給食センターの仕事を続け、退職したあとウォーキング仲間からの口コミで支援会員に登録されました。3年続く活動への感想を伺ってみました。

Q1. 登録を決めた理由は？

人と話すことが好きなのでボランティアを通して出会いを楽しみたい。

Q2. 好きな活動は？

庭の草取り。

→春から秋にかけて草取りの依頼が増えます。しゃがむ体制が厳しく支援できる方が限られる中、Aさんは「外のお仕事は気楽にできるからいいよ」と言つていつも快く支援してくれます。

他にも、掃除、洗濯、買い物代行まで、「苦手だけど」と謙遜しながら、これまでに延べ55回の活動を受けてくれています。

Q3. これからやってみたいことは？

新しいことは考えられないけど、好きな山歩きを続けていきたい。今年は、茶臼山、伊吹山、上高地など歩きました。

→人生100年時代、

これからも好きなこと、できることにチャレンジしながらいきいきと過ごしていただきたいと願っています。

(コーディネーター)

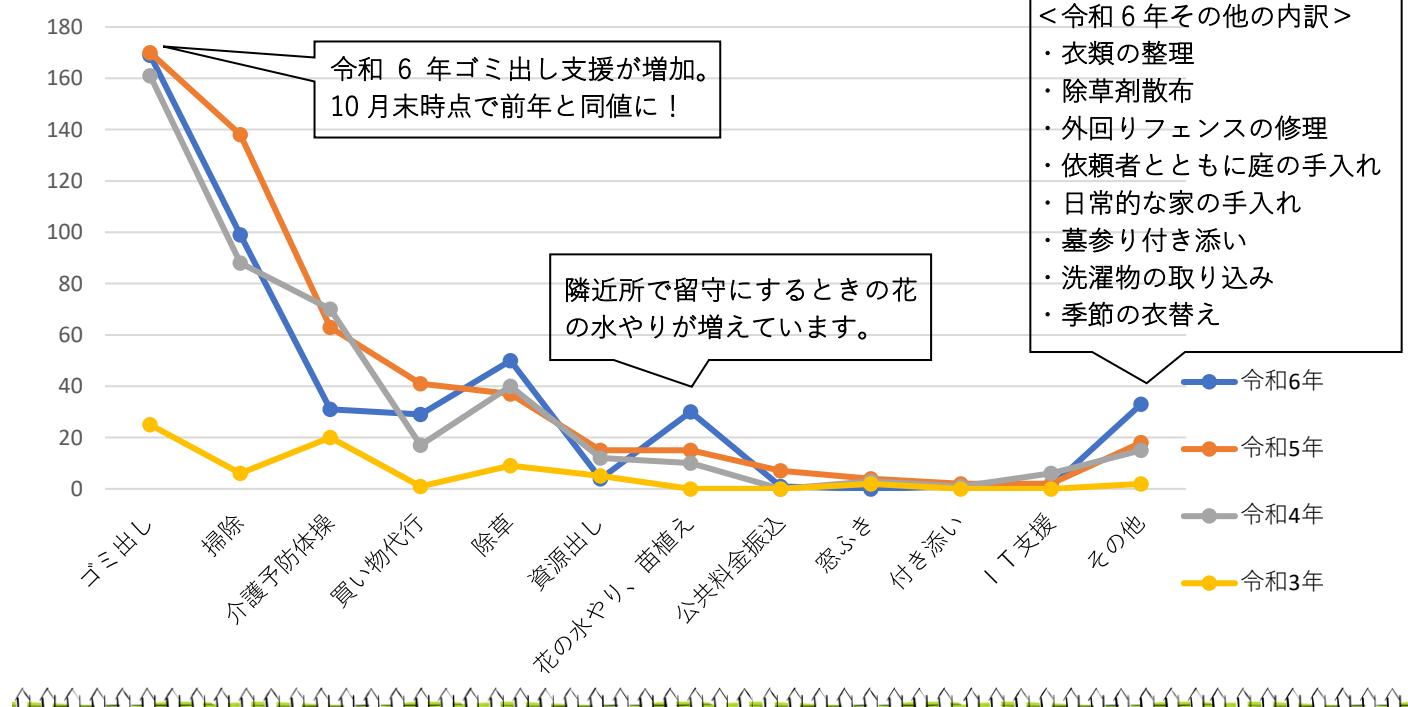


資源出しのあと、活動報告されているAさん(写真右)

活動実績

令和3年10月～令和6年10月 延べ1,453回(令和6年448回)。
助けてほしい方から毎月相談が入っています。依頼会員、両方会員登録が増え、お互いさまの関係が少しずつ広がっています。今後ともご協力をよろしくお願ひいたします。

令和3年～令和6年 活動実績の比較



発行：認定特定非営利活動法人ゆいの会

知多市新知字西屋敷22番地2

電話番号：(0562)32-5906 FAX：(0562) 32-5984

E-mail: yuinokai-seikatu@sage.ocn.ne.jp



ホームページ URL